



関西医科大学 広報

Kansai Medical University Public Relations



建学の精神

本学は、慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

出会いと別れが交差する春



4月5日、枚方学舎へ112名の新たな仲間が入学しました。

C O N T E N T S

法人	2	附属看護専門学校	21
大学	10	同窓会	23
病院	18	メディア情報・お知らせ	24
卒後臨床研修センター	20		

平成26年度医学部入学式挙行

112名が医学生としてスタート

4月5日(土)午後1時30分から、枚方学舎加多乃講堂で大学の「平成26年度医学部入学式」が挙行され、112名が入学しました。山下敏夫理事長・学長をはじめ教職員のほか、竹中洋大阪医科大学学長をはじめとする来賓、50年前に入学した卒業生(38回生)及び保護者の皆様が多数ご臨席されました。

本学の混声合唱団「コールクライス」による学歌とお祝いの歌の斉唱に続いて新入生全員の名前が読み上げられた後、山下理事長・学長は告辞で、「リサーチマインドの大切さ」「クラブ活動の奨励」「母校愛」などについて話し「実り多い学生生活を過ごして下さい」と激励しました。この後、新入生を代表して西原裕子さんが宣誓書を読み上げ、入学生全員の宣誓書が山下学長に手渡されました。また、在学生代表の鈴木健太郎さん(2学年)が歓迎の言葉を贈りました。

この日は満開の桜が迎える中、心配された空模様も持ちこたえ、初めて登校した新入生たちは正面玄関付近で記念撮影するなど、爽やかな笑顔を浮かべていました。一方、式典に先立って、保護者の待合場所となったオープンラウンジでは茶道部の学生がお茶でもてなしました。



正面玄関前での集合写真

学 長 告 辞

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。本日112名の皆さんを迎えて、平成26年度の入学式を挙行できますことは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、まことに大きな喜びであります。ご臨席をいただきました大阪医科大学竹中洋学長をはじめご来賓各位に厚くお礼を申し上げます。競争率約40倍という難関を見事に突破されての合格であり、ご本人の努力と、その彼等の勉強と生活の支援を続けてこられたご家族や関係の方々から心からお祝いを申し上げます。

さて皆さんは本日の入学式を迎えて、喜びとともに、これからの本学で始まる学生生活への大きな期待と、そして少しは不安も抱いておられることでしょう。そこで皆さんの母校となる関西医科大学とはどのような大学か、歴史、現況、近い将来像などについてまずお話しいたします。

本学は1928年に枚方市の牧野の地で、大阪女子高等医学専門学校として創設され、一時大阪女子医科大学と名称の変更はありましたが、1954年に男女共学制を採用して校名を関西医科大学と改めました。1960年には医学進学課程が設置されて、現在の6年課程の教育が行われるようになりました。卒業生総数は7,800名を数え、創立86周年を迎えたという歴史ある学校です。

その長い歴史の中で、諸施設の新陳代謝を行いながら、発展してまいりましたが、その中で特筆すべきは、昨年4月に、まさに皆さんがこれから6年間学ぶ「学

舎」が新しく完成したことです。この新学舎開設により初めて「全学年が学ぶキャンパス」、「全ての研究施設」、「附属病院(本院)」が同じ場所で揃い、かつそれが空中通路で直結することになり、「医科大学としての真の学園」がここに誕生することになりました。私共の長年の夢が実現したわけです。

この新学舎は交通至便、環境良好かつ甲子園球場の2倍という広い敷地に建つ、延床面積4万2千平米という大きな建物です。学舎の周りに木々が植えられ、特に芝生が敷きつめられた中庭から、学園の森、淀川への緑の絨毯が続き、遠景に高槻の山々が望めます。

新学舎は講義室、実習室、講堂、図書館、シミュレーションセンター、学生用ラウンジ、多数のチュートリアルルームと自習室、食堂など学生の教育施設、臨床と基礎の全講座の研究室及び居室、さらには近代的な動物センター、総合研究施設など中央研究施設を含んでいます。恐らくこれらの諸施設は現在の日本の医科大学の中でも有数の教育研究施設ではないかと思えます。

一方、医科大学にとり附属病院は医学教育の原点であり、その充実は最重要事項といえます。本学には枚方病院、滝井病院、香里病院という3つの附属病院があります。少し詳しく説明しますと、本院であり、この学舎に隣接する枚方病院は8年前に開院し、最新、最強の診療機能を持つ750床の基幹病院です。3年連続で

法 人

西日本あるいは大阪1位、全国でも5位の病院という高いランキングを得て、全国的にも大変注目されています。滝井病院は病床数500床の地域中核型の病院ですが、現在新しく建替えを行っており、2年後には急性期総合医療センターとして生まれ変わります。香里病院は4年前の開院という新しい地域密着型の病院で、枚方病院のサテライト機能を持っています。これらの3つの病院群に予防医療を担う天満橋総合クリニックを持つ本学の総合的な診療機能は西日本一、かつ日本でも有数のものと考えています。これらの施設が皆さんの臨床医学教育の、そして将来の医師としての活躍の場になります。このように皆さんが入学する関西医科大学は、昨年新学舎開設で大きく変化を遂げ、その後も滝井新病院建設など休むことなく進化し続けていることをしっかりと頭に入れておいてください。

さて、皆さんは厳しい受験勉強を経て、めでたく本学に入学され、ホッとされていることと思います。しかし、大学に入ることがゴールではありません。単にスタートラインについたに過ぎません。これからの6年間は長いようで短いものです。いかにこの期間を有意義に過ごすか、このことが皆さんの医師としての将来を決定するといっても過言ではありません。その6年間の過ごし方について、何点か皆さんにお話したいと思います。

皆さんはどうしてこの厳しい医学の世界に入ろうと思われたのでしょうか。おそらく「病気で苦しんでいる人を一人でも救いたい」という気持ちではないでしょうか。そのためにはある程度の自己犠牲は覚悟されていると思います。言っておきたい第一は、この初心と、将来の医師としての使命感を忘れないでほしいということです。本学の建学の精神は「慈心仁鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成する」ことです。これからの6年間、教養を深め、医師として必要な知識、技能を学ぶとともに、患者さんの痛みのわかる心を持ち、患者さんの立場になって行動する態度、病める人に対する思いやりの心を身につけてください。

次に皆さんのこれまでの勉強方法を大きく変えてください。おそらく高校では与えられた知識を吸収するという受身の勉強、即ち暗記力中心であったかと思います。これから学ぶ医学知識の量は膨大で、丸暗記ではとてもやっていけません。また皆さんがこれからの医療の第一線で働く時に求められるものは、患者さんを前にしての咄嗟の判断力や、生命そのものに関わる倫理観等です。与えられた知識を良く理解し、整理し、さらに自分で問題点を見つけ、自分で考えるという自

学自習の習慣、さらには知識を能動的に使いこなす知恵を学んでください。

一方、大学というところは皆さんの今までの、さらにこれからの長い人生の中で比較的自分の時間を自由にかつ有効に使うことができる場所です。この時期は、学問のみでなく、持っている才能や個性に磨きをかけ、さらに医師として将来要求される体力とコミュニケーション能力をつける絶好の時期であり、また、皆さんの今後の人生の指標や価値観を育む大切な期間でもあります。世界的視野を持って幅広く行動してください。失敗を恐れなくて行動することは若い人の特権です。また、本学にはたくさんのクラブ活動があります。新学舎にはテニスコートなどいくつかの運動施設はありますが、グラウンドや体育館は少し離れた牧野キャンパスにあります。本学ではクラブ活動支援のために授業の終わった夕刻に、ここ枚方学舎から牧野までスクールバスを出しています。是非クラブに入り、その活動を通じて、これらの能力を獲得し、そして多くの友人と素晴らしい人間関係を築いてください。ただ、繰り返しますが、医学部では6年間で学ぶ知識量は真に膨大なものですから、学生生活にメリハリをつけ、まず勉学に励むことを第一に、次にその余暇をクラブ活動に励んでください。ということが第三の点でとても大切なことです。

第四は言わずもがなのことですが、医学生であると共に社会人であるという自覚を持って行動してください。まず挨拶をしましょう。これは礼儀の基本であり、医師としての出発点でもあります。もう1つ身だしなみには注意してください。本当の自由はきちんとした規律の中にこそあることを忘れないでください。

さて、本日の入学式には、50年前に本学に入学された皆さんのOBをご招待しています。まさに医療界で重鎮としてご活躍の方々が、ご多忙の中を皆さんの入学にエールを送るために出席していただきました。新入生の皆さん、本校は常にOBの母校愛によって見守られていることを銘記してください。

関西医科大学はバランスのとれた大変良い大学だと思っております。したがって皆さんは本当に良い大学に入ったと先輩の一人としても自信を持って言えます。選ばれた皆さんは関西医大を、そして日本の医学を背負ってくれるものと信じます。皆さんを心から歓迎し、ご活躍を期待しています。

健康に留意され、関西医大人として誇りを持って、実り多い学生生活を送られますことを祈り、私の告辞といたします。本日は誠にありがとうございます。

法 人

退 任 の 挨拶

定年を迎えて—「生物のセンセ」だった私

前生物学教室 教授 吉本 康明



私が関西医大の生物学教室に入職したのは、昭和の最後の年でしたから、在職期間を尋ねられた時は、ちょうど現在の平成の年号と一致しますので答えやすかったものです。ですから定年を迎えた今年で26年間、四半世紀を超えるくらい長い間お世話になったこととなります。そのほとんどが牧野キャンパスで、おもに学生の初等教育(教養課程)にかかわってまいりました。自宅もキャンパスから数分のところにありましたから、牧野での生活がすべてだった気がいたします。その間、教育も自分自身の研究もなかなか満足のいくところまでは到達できませんでしたが、それより長年お世話になった大学にどれほど貢献できたか、反省することしきりです。

いまだにどういう訳か分かりませんが、きっと先輩たちからは、新米教授のくせに生意気な輩とも思われたのでしょうか、次々と教養部での役職を毎年のように途絶えることなく押しつけられました。正直大変うんざりはしましたが、大学で消費するエネルギーの大半を費やすことになってしまいました。しかしこればかりは能力の問題ですから仕方が無く、いまだに実現できていない課題も多々ありますが、なんとか実現できた数少ない課題もありました。その中で最も早く、最速で実行できたことは、「新入生オリエ

ンテーション」です。

当時は新入生の歓迎会(保津川下りと嵐山の料亭での宴会)はあったのですが、肝心の6年間のカリキュラムの具体的なオリエンテーションはありませんでした。それで入学式の近づいたある日、そのことを当時の学長にお話しして、「今回は間に合いませんが、来年はぜひご検討下さいませんか」と提言しましたところ、「いや、ぜひ今回からやろう」と言われまして、すぐに関係の先生方に電話されまして、わずか30分くらいの間に、本格的なオリエンテーションをやることに決まりました。これがきわめて早く実行できた例の一つです。もちろん当時の学長の実行力のおかげですが、逆にもっとも長くかかったのは、牧野の本館のトイレに換気扇をつけることでした。たったこれだけの事に、実に20年くらいかかってしまいました。

こうして定年を迎えた今、長い牧野での大学生活をふり返ってみますと、私はやはり「生物のセンセ」であったなと深く反省しております。去年の教養部紀要の最終号(33巻)に「牧野キャンパスの生きものたち」を投稿させていただきましたが、この中で私は自分のことを「生物のセンセ」とくり返し自称しております。これは「イが足りない、至らない先生」という意味です。これから残された人生を「イが足りた先生」に近づくように努力して生きていきたいと思っております。

退 任 挨拶

前救急医学講座 診療科教授 中谷 壽男



平成10年夏、講座に所属しない診療科として救急医学科が創設され、初代の講座外診療科教授として着任してから16年弱の長きに亘りお世話になりました。当時の救命救急センターは内部に諸問題を抱えていたため、講座とはせずに診療科として創設されましたが、すぐに学位審査権も与えられ、また、独立した救急中毒チュートリアルコースを担当し、実質的に講座と遜色ない機能を果たしてきたものと自負しております。

診療面では、この16年弱の間に、救急医学科としておよそ1万名の三次救急患者を受け入れました。死に直面している多くの患者さんを、我々の手で、あるいは自分自身の手で劇的に回復させることが出来たり、困難な病態を専門各科の先生方のご支援を得て克服することが出来たときには、苦勞も吹き飛び、おおいに達成感が得られる仕事で有りましたが、一方で、数え切れない命が消えて行くのを目の当たりに致しました。

研究面では、他機関と共同の基礎研究、動物実験に基づいて、自己骨髄細胞の髄液内投与による脊髄損傷の治療を世界に先駆けて本学で着手し、安全性の確認と一定の成果が得られたため、現在は多施設共同研究に向けて準備を行っております。また、教育面では長年に亘り教務委員を担当するとともに、大阪府立、京都市立の消防学校などでの教育にも携わって参りました。

救急医療を行うには、行政との関わりが大層重要で有り、大阪府、府医師会、地域消防などの多くの委員を担当させて頂きました。長年、このような委員や役員をしておりましたため、近年、知事表彰や大臣表彰を頂く事が出来ましたが、私がこのような仕事にも従事出来たのは、大学や病院のご理解と、支えてくれた医局員のおかげと感謝しております。また、関連するいくつかの学会の代表理事や理事を務めさせて頂き、それぞれの学会長も担当いたしました。中でも一昨年、京都で開催いたしました第40回日本救急医学会総会では4,500人の参加者を得て、大変盛会のうちに終えることが出来ました。また、救急医学科からは他大学の医学部において、主任教授2名を含む5名が医学部教授として、2名が准教授として活躍してくれております。

このように書いてきますと、良いことばかりであったようですが、決してそうばかりではありません。退職に当たり、身辺整理をしておりますと、昔の嫌なこと、苦しかったことを思い出させる書類が出て参りました。しかし、そのような事の多くは記憶が薄らぎ、良かったことばかりが印象に残っている自分は、楽天家なのだろうか、いやいや、幸せ者なのだろうと思う今日この頃であります。

さて、関西医科大学にとりまして、苦しかった時代はもうすぐ終わり、経営的にも質的にも輝かしい時代がもうすぐ目の前まで来ております。このようなときに大学を去るのは心残りではありますが、大学の繁栄を外から見守ってみたいと存じます。

長らく有難うございました。

法 人

枚方キャンパス統合移転整備事業募金の報告と御礼

枚方キャンパス統合移転整備事業募金は、平成25年12月31日をもって事業活動を終了いたしました。寄付金は総件数1,542件、総額13億1,342万3,400円、学校債は総件数51件、総額7億3,000万円、事業全体で総合計額20億4,342万3,400円の実績を挙げることができました。期間中、皆様からは多大なるご支援を賜り、衷心より深く感謝申し上げます。

寄 付 金

前号以降にご寄付いただきました方々のご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。

〈個人〉

〈法人〉

HP上では非公開とさせていただきます。

学 校 債

平成23年度・平成24年度学校債を引受けいただきました方々のご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。

〈個人〉

HP上では非公開とさせていただきます。

〈法人〉

209人が本学の仲間として社会人生活をスタート

平成26年度一般職合同入職式開催



山下理事長の訓辞を聴く新入職員

4月1日午前9時15分から平成26年度一般職合同入職式が枚方学舎加多乃講堂において、山下敏夫理事長・学長をはじめ人事担当理事、附属3病院の病院長、事務部長、看護部長、ならびに法人事務局総務部長臨席のもと開催され、209名が入職しました。この一般職合同入職式は、大学職員としての自覚を求める意味と、同期入職者の繋がりを深める意味を込めて、昨年度から合同による開催となりました。

入職式では、山下理事長・学長から「本学の歴史や現状及び未来を見つめ、建学の精神を胸に大学職員としての誇りと愛を持って仕事に励んでほしい」との訓辞があり、続いて、新入職者全員の氏名が呼ばれた後、法人事務局財務部経理課に配属の中尾大志さんが代表して辞令を受け取りました。その後、附属枚方病院薬剤部に配属の今井雄介さんから答辞として「指導を仰ぎながら、一日も早く責任ある仕事ができるように精一杯努力します」との決意が述べられました。

法人

滝井リニューアル NOW

附属滝井病院リニューアル事業計画の進捗をお伝えします。

Topics

- 新本館のパース図が出来上がってきました。
- 工事現場にはパース図が掲示されています。

滝井病院新本館パース図続々完成

滝井新本館のパース図(完成予想図)が続々と出来上がってきました。建物を様々な角度から眺めたものや、建物内部の様子もうかがい知ることができます。



京阪電車滝井駅方面から見た様子



現在の南館ロビー付近から見た様子



エントランスホール

4月初旬の工事風景



旧専門部学舎解体工事の様子



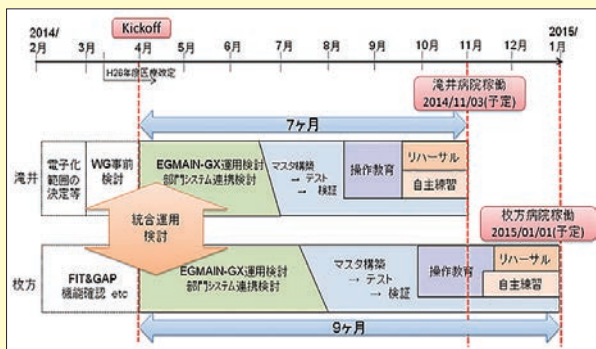
旧4号館・10号館跡地立体駐車場が徐々に姿を現しています。



工事フェンスには、新滝井病院本館のパース図が掲示されています。

大学情報センター 附属枚方病院・滝井病院医療情報部

基幹情報システム更新(枚方・滝井病院)について



システム更新スケジュール

「病院情報システム10カ年事業計画」の実施を受け、基幹ベンダを富士通株式会社に選定しました。まず平成26年度は枚方・滝井両病院の基幹システム更新(EGMAIN-GX)を行い、稼働は滝井2014年11月、枚方2015年1月を予定しています。導入の基本方針は、全体最適(病院間の業務・システム運用の統合化・共通化を推進し、パッケージ運用を基本として現状運用との整合性を図る)、およびIT環境の高度化(仮想化技術の応用等)です。

本プロジェクトは大学情報センター統括のもと、各病院医療情報部での運用検討を開始します。なお今回の滝井病院更新は一次導入と位置づけ、運用統合や新機能追加を含めた現システムの機能移行を基本とし、2016年の新病院開院時に合わせて部門システムの拡充を含めた全機能を実装します。このたびキックオフとして、システム更新説明会を3月26日17時~18時に2病院中継で合同開催しました。

法人

就任の挨拶

生物学教室教授に就任して

生物学教室 教授 平野 伸二



このたび本学生物学教室教授を拝命いたしました。私はもともと細胞生物学や神経発生学の研究畑出身ですが、前所属の高知大学医学部では解剖学講座において5年半にわたり解剖学の教育を担当してまいりました。そこでは医学教育の大切さを学ぶとともに医学教育の置かれている現状などいろいろ知ることができました。

本学においては主に1年生を対象とした生物学を担当し、選択必修生物学、生物学、分子生物学の講義や実習などを行ってまいります。理学部の生物学では興味の赴くままに真理の探究をするということもありますが、医学部では解剖学、生理学、医化学などの専門科目を習得するための基礎科目としての重要性があります。今や生物学が医学に直結するような知見や技術の開発を生み出す基礎学問分野として重要になってきたことは皆様もご存知の通りです。私は学生に生物学の面白さを伝えるとともに、解剖学での教育経験を生かして専門課程に通じる基礎知識の伝授や観察力などのスキルの養成をしていきたいと考えております。

研究においては、細胞接着分子カドヘリンによってヒトのからだや神経回路がどのようにしてできているのかを明らかにしていきたいと考えております。一つの受精卵から複雑な体が自然にできるといふ生命の巧みに驚嘆させられます。その仕組みの一端を解明することで基礎学問分野への寄与ができればと思っております。また最近では

細胞接着分子の異常が精神神経疾患の原因になることも明らかにしつつあり、それらの分子の研究を通じて医学分野への貢献もしていきたいと考えております。

高知の田舎から出てくると高知のよさが懐かしく思われるとともに、大阪の活気を肌で感じることができます。私はこの新天地で決意を新たに頑張っていきたいと思っております。医学生として歩み始める新入生の教育に携わることができるのは教育者としての楽しみであり、一方で大きな責任も感じております。生物学教育を通じて教養課程から専門課程への橋渡しができるように尽力していきたいと思っておりますが、私自身まだまだ学ぶべきことが多くあります。

皆様より御指導御鞭撻を賜れば幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

一 略 歴

- 平成4年3月 京都大学大学院理学研究科博士課程修了博士 (理学)
- 平成4年9月 岡崎国立共同研究機構 基礎生物学研究所助手
- 平成7年5月 米国南カリフォルニア大学ドゥワーニ眼研究所博士研究員
- 平成9年9月 愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所研究員
- 平成15年4月 理化学研究所発生再生科学総合研究センター研究員
- 平成12年10月 科学技術振興機構さきかけ研究21研究員 兼任
～平成15年9月
- 平成20年10月 高知大学医学部解剖学講座准教授
- 平成26年4月 関西医科大学生物学教室教授

内科学第二講座糖尿病科診療教授に就任して

内科学第二講座糖尿病科 診療教授 豊田 長興



4月1日付けで関西医科大学内科学第二講座の糖尿病科診療教授を拝命致しました豊田長興と申します。はじめに、ご推挙頂きました多くの先生方に心より御礼申し上げます。塩島一朗主任教授のもと、糖尿病の診療・教育の発展に力を尽くす所存でございますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

私は昭和60年に関西医科大学を卒業後、内科学第二講座の稲田満夫、西川光重両教授に御指導を頂き、今日まで一貫して糖尿病・内分泌学の臨床、教育、研究に携わってまいりました。学位取得後、米国ハーバード大学医学部に留学し、分子生物学的な考え方の基礎を学びました。2006年に枚方病院が開院後、内分泌内科学科長として糖尿病診療に携わってまいりました。2012年4月より代謝内科科長及び内分泌内科科長を兼務し今日に至ります。

近年の糖尿病の有病率の増加は世界的規模の問題であり、わが国においても特に糖尿病予備軍と言われる人口の増加が顕著です。この増加には、人口の高齢化、生活習慣の変化、運動不足、肥満者の増大などが影響しています。このように増加する糖尿病の患者に対応するため、本学に糖尿病科を新設頂いたものと推察致します。

糖尿病の患者さんは網膜症、腎症、神経症などの細小血管障害に加え、虚血性心疾患、脳梗塞、閉塞性動脈硬化症などの大血管障害を合併している場合が多く、その早期発見及び治療には、糖尿病科のみならず他の診療科との協力

が必要不可欠です。さらに、糖尿病を合併した妊婦には、より厳格な血糖コントロールが求められ、女性診療科との連携も重要となります。このような診療科の枠を越えた横断的な取り組みをよりスムーズに行っていくため、糖尿病センターの開設に向けて準備を進めています。御支援を賜りますようお願い申し上げます。

枚方病院開院より、地域との連携に努めてまいりました。糖尿病科の新設、並びに糖尿病センターの開設を機に、地域の糖尿病診療の基幹病院として、今まで以上に地域との連携強化に努めてまいります。

今後ともより一層の御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

一 略 歴

- 昭和60年3月 関西医科大学卒業
- 昭和60年4月 関西医科大学付属病院内科 研修医
- 昭和61年4月 関西医科大学内科学第二講座 研修医
- 昭和62年4月 淀川キリスト教病院内科 研修医
- 昭和63年4月 関西医科大学内科学第二講座 医員
- 平成4年4月 米国ハーバード大学留学
- 平成7年4月 関西医科大学臨床検査医学講座 助手
- 平成8年4月 関西医科大学内科学第二講座 助手
- 平成14年4月 関西医科大学内科学第二講座 講師
- 平成21年4月 関西医科大学内科学第二講座 准教授
- 平成26年4月 関西医科大学内科学第二講座糖尿病科診療教授

法人

就任の挨拶

外科学講座小児外科診療教授に就任して

外科学講座小児外科 診療教授 濱田 吉則



平成26年4月1日をもちまして小児外科診療教授に就任いたしました。私は、昭和52年に本学を卒業して直ちに外科学講座(山本政勝教授)に入局以来、出向と留学の3年余りを除く約33年間、滝井病院、枚方病院において診療、研究、教育に携わってまいりました。平成19年5月からは、今村洋二院長のご推薦で附属枚方病院小児外科病院教授に任用され、小児外科の臨床に主力を注いでまい

ました。

権雅憲主任教授のもと、枚方病院外科には消化管外科、肝胆膵外科、乳腺外科、血管外科、小児外科の5つの診療科があり、それぞれが専門分化した高度な医療を提供しています。それぞれの診療科には扱う疾患からくる避けられない特徴があり、それは利点欠点、一長一短でもあります。互いにそれを補い連合体としての機能を発揮することが求められています。また診療だけではなく大学には研究や教育という医学にとって重要な役割があります。外科において一番年長の私に期待されているのは、権教授をお支えて互いの和を図り総合力をさらに高めること、そして最近の外科離れを食い止め、入局者を増加させ外科をさらに発展させることだと思います。

今回同時に小児脳神経外科が、そして近い将来小児心臓外科が新設され診療教授が就任されます。今後は枚方病院に小児の外科系診療科が集まったセンターが構築されることを期待しています。院内においては、こどもの外科的疾患を総合的に高度なレベルで治療できる病院にするべく努

力します。それには互いに講座を超えて有機的に連携できるような体制作りが必要です。私の診療は小児外科という限られた範囲ですが、センター化していくにあたって連携への努力は惜しみません。小児腎泌尿器外科、産婦人科、麻酔科、救急医学などとの協力体制をさらに強化し、形成外科、整形外科、耳鼻咽喉科、眼科などの外科系診療科の小児部門ともうまく連携していければと考えています。

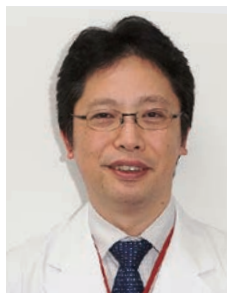
5月の連休明けに第51回日本小児外科学会学術集会を主催します。これを機に関西医科大学小児外科は名実ともに大阪、関西にとどまらず全国区になります。これからの私に与えられたもうひとつの使命は、日本において若い小児外科専門医をひとりでも多く育てることだと考えています。小児外科の研修を希望する人には学閥や大学の枠を超えて積極的に受け入れています。手術でしか治せない病気をもつ子どもをひとりでも多く一緒に治せる仲間を増やしていきたいと思ひます。皆様の温かいご支援、ご指導をよろしくお願いいたします。

— 略 歴 —

昭和52年 3月	関西医科大学医学部卒業
昭和52年 5月	関西医科大学外科学講座入局
昭和59年 4月	関西医科大学外科学講座助手
昭和60年 11月	ロンドンHammersmith Hospital組織化学留学 ～昭和61年10月
平成 4年 10月	関西医科大学外科学第二講座講師
平成12年 1月	関西医科大学外科学第二講座助教授
平成15年 4月	関西医科大学外科学講座助教授
平成26年 4月	関西医科大学外科学講座小児外科診療教授

脳神経外科学講座小児脳神経外科診療教授に就任して

脳神経外科学講座小児脳神経外科 診療教授 埜中 正博



平成26年4月1日付けで、関西医科大学脳神経外科講座・小児脳神経外科診療教授を拝命いたしました埜中正博と申します。ご推挙いただきました多くの先生方には心より御礼申し上げます。浅井昭雄主任教授が主宰されます伝統ある関西医科大学脳神経外科の中で、小児脳神経外科領域の診療、研究、教育に尽力していく所存でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は平成4年に大学を卒業し、3年間一般脳神経外科の研修を受けたのちに大学院へと進み、神経損傷の機構についての研究を行ってきました。大学院を卒業してからは主に国立病院大阪医療センターにて水頭症、脊髄の先天異常といった小児脳神経外科領域の疾患と成人を含む脳腫瘍全般についての責任者として、年間200例近くの手術を術者、あるいは指導者として行って参りました。小児脳神経外科で扱う疾患は先天異常や腫瘍、脊髄疾患のみならず、血管障害や神経機能領域に及んでおり、またそれぞれが希少疾患であるため幅広い経験が必要であります。幸い、私はこれまで多くの小児疾患の診療に携わる機会を得ることが出来ました。その豊富な経験をこれからの診療と研究、教育に活かしていこうと考えています。

残念ながら本邦では小児脳神経外科の占める地位はさほど大きくはありません。診療は小児専門病院に偏っており、研究と教育が十分に行われているとは言えない状況です。しかし、この度関西医科大学において小児脳神経外科に力を入れるべく診療教授を公募していただき、私

が拝命するという機会に恵まれたことは大変な幸運であると考えております。

この領域ではまだまだ治療法の改良や開発を進める余地があると感じております。さらに症例を重ね、多くの疾患において治療法の改良を目指したいと思ひます。これまで培ってきた経験をもって最善の治療を行い、患者さんや家族、院内の皆様の信頼を得て、その信頼をさらに広く院外に広め、できるだけ多くの患者さんたちの診療に携わりたいと考えております。そしてより多くの若い人たちに、小児脳神経外科の素晴らしさを伝えることが出来ればと思ひています。

小児脳神経外科はとりわけ他分野の諸先生方との連携が重要な分野であります。また関西医科大学が日本における小児脳神経外科の牽引者となるべく発展させていきたいと思ひます。今後とも皆様方のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。

— 略 歴 —

平成 4年 3月	大阪大学医学部卒業
平成 4年 4月	大阪大学医学部附属病院研修医(脳神経外科)
平成 5年 4月	市立吹田市民病院脳神経外科
平成 7年 4月	大阪大学大学院医学研究科入学
平成 9年 4月	ペンシルバニア大学脳神経外科 神経外傷研究室留学 ～平成11年 4月
平成13年 3月	大阪大学大学院医学研究科卒業
平成13年 4月	市立泉佐野病院脳神経外科
平成14年 5月	国立病院機構大阪医療センター 脳神経外科 医員
平成25年 4月	同医長
平成26年 4月	関西医科大学脳神経外科学講座小児脳神経外科診療教授

1月6日～4月5日 主な出来事

本誌掲載期間内の主な出来事をご紹介します。(記事掲載は太字)

法人	4月1日	一般職入職式	
	4月1日～4日	入職者研修	
大学	1月14日	近畿・中部地区医系大学知的財産管理ネットワーク 新技術説明会	
	1月18日、19日	センター利用入試1次試験	
	1月18日、19日	7大学連携先端的癌教育基盤創造プラン 第2回国際シンポジウム	
	1月25日	一般入試(前期)第1次試験	
	2月9日	一般入試(前期)センター利用入試第2次試験	
	2月14日	第130回学内学術集談会	
	2月15日	大学院入試・論文博士語学試験(後期)	
	2月28日	赤根教授へ法務大臣感謝状贈呈	
	3月5日	医学部卒業式	
	3月9日	一般入試(後期)第1次試験	
	3月12日	枚方学舎消防訓練	
	3月18日	一般入試(後期)第2次試験	
	3月20日	教員評価優秀賞表彰式	
	3月25日	平成26年3月学位記授与式	
	3月25日	業務改善コンテスト発表会	
3月25日	平成26年3月学位記授与式		
4月2日	StudentDoctor認証式		
4月5日	平成26年度入学式		
附属 枚方病院	3月10日	第4回業務改善コンテスト発表会	
	3月20日	院内ボランティア活動者に対する表彰式	
附属 滝井病院	1月24日	消防訓練	
	2月15日	第19回肝臓病教室	
	3月15日	第5回よくわかる肝臓病セミナー	
	3月14日	業務改善コンペティション	
	3月19日	栄養管理部消防訓練	
香里病院	2月22日	香里園かほりまち1街区竣工式	
	3月6日	医療安全・感染対策相互ラウンド	
看護 専門学校	1月9日、10日	一般入試(前期)	
	2月18日	一般入試(後期)	
	3月6日	看護専門学校卒業式	
	4月4日	平成26年度入学式	
卒後 臨床研修 センター	1月18日	平成25年度初期研修医勉強会(第5回)	
	2月8日	看護シスター研修	
	2月15日	看護副師長研修	
	2月25日	吉本新喜劇から学ぶ「なんでやねん力！」	
	3月28日	臨床研修修了式	
	4月1日	初期臨床研修医入職式	

医学部卒業式

第130回学内学術集談会

枚方学舎消防訓練

医学部入学試験合格発表

看護専門学校卒業式

コミュニケーションセミナー

大 学

枚方学舎を巣立つ、初めての卒業生 第60回卒業式挙

3月5日(水)午後1時から、枚方学舎1階加多乃講堂において「第60回卒業式」が挙



在校生からの送辞を聞く卒業生



卒業生の皆様、ご父兄の皆様、本日はご卒業誠に

めでとうございます。本学を代表いたしまして心からお祝い申し上げます。また本式典にご臨席頂きました大阪医科大学竹中洋学

長をはじめご来賓の皆様

に心から感謝申し上げます。本日、男子62名、女子32名、合計94名の卒業生を送り出すことができ、また皆様の晴れ晴れとしたお顔を拝見し、私自身大変な喜びであり、と同時にこれまでの努力と研鑽の成果を心から讃えたいと思います。さらに皆様の卒業を心待ちにしながら学業や生活の支援を続けてこられたご家族、関係の方々に深く敬意を表します。

さて皆様は、本日卒業され、国家試験に合格しますと2年間の臨床研修があるとはいえ、社会人として、また医師として社会で、医療界で生きることになります。医師であるという素晴らしい権利を得られる一方、義務と責任が生じます。それらを果たしながら皆様は今後何をし、どのように生きていくべきでしょうか。

日本の医療は国民皆保険という素晴らしい制度のもとにある反面、診療報酬という公定価値で全てを縛るという社会主義的な制度にもなっています。皆様はまずこの制度を熟知し、逸脱しないことから始めてください。また最近臨床研究論文の不正などが新聞を賑わしていますが、研究倫理もわきまねばなりません。社会人として社会のルールを守り、しっかりと医師としての義務と責任を果たしてください。

学 長 告 辞

み、愛を心の規範とする人間性豊かな良医として生きることだと思います。患者一人ひとりのニーズに応え、人格を尊重し、病気ではなく病人を診る医師になってください。これが原点であり基本です。この基本に味付けをして、さらに質の高い医師になっていただくために、私から3つのことをすすめてと思います。

まず第一は大学でのキャリア形成のすすめです。皆様がこの4月から参加する初期研修制度では、学生は自由に幅広く進路を選択でき、それはそれで結構なのですが、一方多くの問題が生じています。以前は卒業後約8割が大学で研修していたのが、今は5割を切りました。私が今日ここで是非述べたいことは、初期研修を市中の病院ですることは決して悪いことではありませんが、後期研修以降で必ず一度は大学に戻って研修をして欲しいということです。本当の専門医教育は大学でしかできないと思います。そのための大学です。現在、私が理想と考える皆様のキャリア形成は、一時期、大学で高度医療と研究を行い、また一時期、一般病院でプライマリーケアを学ぶ、すなわち、大学と病院を循環しながら自分のキャリアを形成していくことです。

第二番目が医学研究のすすめです。前述したように大学に残る人の数が半減し、それに伴い、予想をしていなかった大きな問題が生じつつあります。それは大学院などで医学研究をする人の減少です。その影響がすでに一流国際雑誌への日本からの投稿数の低下という型で如実に出ています。世界で一流、少なくともアジアをリードしてきた日本の医学研究は今や中国や韓国に抜かれつつあります。このことは勿論日本の国民の医療レベルの低下にも直結する由々しき事態です。そもそも病気を根本的に治すには医学研究が必須で、そのために臨床医にとっても、科学する心、研究マイ

大 学

ンドが極めて大切です。ノーベル賞を受賞され、人間の生命と健康という極めて重要な問題の改善に多大な貢献をされている山中伸弥先生は、本学の客員教授であり、1つ下の学年からで、皆様には残念なのですが、毎年、本学の医学概論の講義を通じて、本学の学生に大きな影響を与えていただいております。もともと臨床家であった山中先生は、病気を根本的に治すには基礎研究が大切であることを、身を持って私たちに示していただきました。研究生活を経験した人は、医学・医療に対する視野が格段に広がり、グレードの高い、良い医療を行えます。

第三番目に留学のすすめです。日本は今後益々国際化が進み、グローバル社会になります。医学・医療の世界でも例外ではありません。グローバル時代に大切なことは自分とは異なる生活や様々な価値観とぶつかり合い、異質なものを自分の中に取り込む、換言しますと、世界や社会の持つ多様性を自らの力にすることで、それで精神的なたくましが養われます。それらを実行する最良の方法が留学です。私は30歳から2年間ドイツのフランクフルト大学に、40歳の時に米国のハーバード大学に留学しました。良き知人、友人ともめぐりあい、対応力の「引き出し」を増やすことにも役立ちました。「富士山より高い山がある」ことも実感しました。また何よりも、ひ弱であった私が精神的にも知的にもタフになりました。日本人の国外留学者はこの10年で半減しました。その要因の大きなものが「無理に外国へ行かなくても日本で十分」という内向き志向にあるといわれています。誠に残念です。皆様も今後の50年以上にも及ぶ医師としての人生の中で、一度は東北・楽天の「マー君」が果敢に米国野球に挑戦したように、外向き志向になり、種々の未知への挑戦と開拓をする野心的な意欲を持ってください。

さて、いよいよ本学の話をしていただきます。日本の医学・医療界は多くの困難を抱え、先行き不透明な時期を迎えようとしています。幸い本学、関西医科大学の現状、将来は極めて明るく、進化し続けると自信を持って言えます。卒業していく皆様にもこのことをしっかり頭に入れておいていただきたいと思ひます。

まず本日の卒業式は新学舎の加多乃講堂で初めて行われる記念すべき卒業式であるということ強調したいと思います。昨年の4月に本学は待望の新学舎が完成し、これにより本学の全てが変わり、まさに新しい関西医科大学の幕開けとなりました。大学の全ての機

能がここに集約し、本邦で屈指かつ最新、最強の教育研究環境が整いました。皆様は最後の1年間と短い期間でしたが、新しい学舎での生活を満喫されたことと思います。

一方、枚方病院は昨年も3年連続で大阪1位、全国でも5位の病院という高いランキングを得て、全国的にも大変注目されています。さらに高度で良質で安全な医療を行うために、診療機能の大幅な強化を行いました。その部門で全国的な腕を持つ診療教授を公募で、この1年間で9名という多数の方を選出、任用しましたし、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」の導入をはじめ施設、設備の拡大、充実を図りました。

滝井病院に関しては念願の新病院建設が既に昨年10月に着工し、平成28年春に完成します。その1年後には広く緑豊かなホスピタルガーデンも完成し、地域中核型の素晴らしい急性期総合医療センターに生まれ変わります。新病院が建ち上がるまでの2~3年間の活性化のために滝井病院でも、心臓血管病センター、透析センター、PETセンターの新設や高名な特命教授、診療教授の任用など診療機能の大強化を行い、好評を博しているところです。

本学は今年で創立86年目に当たります。創立90周年を迎える平成30年までには本学の主要施設は全て新しくなり、また枚方病院建設時に生じた巨額の借入金も実質的に完済したいと考えています。その後は資金を全て教育、研究、診療の内容の充実にあて、創立100周年を向かえるころには日本に冠たる「5つ星」の医科大学になっていると思ひます。本学は日々進化し発展します。皆様は益々母校を信じ、誇り、頼ってください。

最後に少し現実的な話で、また繰り返しになりますが、皆様には、後期研修あるいはそれ以降の一時期を是非関西医科大学に戻り、今述べましたこの素晴らしい本学の教学・診療の諸施設やシステムの元で、キャリア形成されることを心から願っていますし、私はそれが皆様のためになると信じています。留学もしてください。そして大きな志、高い志に向かって夢を持ってください、夢を語ってください。また、人間性豊かであると同時に、正確な知識と卓越した技術を持った医師として大輪の花を咲かせてください。

この進化する関西医科大学の卒業生として誇りを持ち、健康で意義のある人生を送られることを心から祈念し、私の告辞といたします。本日は誠にめでとうございます。

大 学

赤根教授へ法務大臣から感謝状が贈呈

法医学講座の赤根敦教授へ法務大臣から感謝状が贈呈されました。

これは、多年にわたり鑑定医として検察事務に対する協力と刑事司法の適正な運用に貢献された鑑定医に対し、贈呈されるもので、2月28日(金)大阪地方検察庁において、法務大臣感謝状及び記念品(銀杯)が贈呈されました。

赤根教授は「色々な事件の解決に、地道に協力してきたことが評価されたと思うので、今後も続けていきたい」とコメントされました。



感謝状を手にする赤根教授

平成26年3月学位記授与式を挙行

学位記を授与される学位取得者



平成26年3月学位記授与式が3月25日(火)午後3時から、枚方学舎4階中会議室で挙行され、課博8名、論博6名に博士(医学)の学位記が授与されました。山下敏夫理事長・学長から学位取得者一人ひとりに学位記が手渡され、さらに「今までやってきた研究やその経験を生かして、これからも研究を続けると共に、ぜひ後進世代の指導をしてほしい」との激励の言葉が贈られました。

その後、学位取得者を代表して中山新士さんから謝辞が述べられました。

教員評価の優秀者30名決まる

平成24年度の「教員の活動状況調査票」をもとに平成25年度教員評価優秀者30名が選定され、3月20日(木)午後3時45分から枚方学舎4階中会議室において、山下敏夫理事長・学長から、受賞者に表彰状と図書券が贈呈されました。

今年度は、昨年度と同様、対象者全員から提出された「教員の活動状況調査票」をもとに、各職位において表彰回数を通算3回を超える教員は表彰の対象外として、准教授5名、講師10名、助教15名が表彰者に選ばれました。

平成25年度教員評価優秀者(調査対象期間での職位を記載)

■准教授

廣原 淳子(内科学第三)
荻野廣太郎(小児科学)
谷内昇一郎(小児科学)
岩瀬 正顕(脳神経外科学)
渡邊 淳(大学情報センター)

■講 師

義澤 克彦(病理学第二)
神田 靖士(公衆衛生学)
尾崎 吉郎(内科学第一)
宮坂 陽子(内科学第二)
内田 一茂(内科学第三)
加藤 正樹(精神神経科学)
吉村 匡史(精神神経科学)
朝子 幹也(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)
大村 直人(放射線科学)
津田 雅庸(救急医学)

■助 教

新庄 正路(物理学)
河本 慶子(医学教育センター)
安室 秀樹(内科学第一)
玉置 岳史(内科学第一)
池浦 司(内科学第三)
水野 泰行(心療内科学)
織田 裕行(精神神経科学)
齊藤 幸子(精神神経科学)
嶽北 佳輝(精神神経科学)
福井 淳一(外科学)
小延 俊文(胸部心臓血管外科学)
上尾 礼子(皮膚科学)
菅野 渉平(放射線科学)
梅垣 岳志(麻酔科学)
齊藤 福樹(救急医学)



表彰式の様子

大 学

平成26年度教務関係日程表(1～4学年) ※5・6年は次ページ

1学年	
4/5(土)	入学式
4/7(月)～9(水)	新入生オリエンテーション
4/10(木)・11(金)	合宿研修
4/14(月)	1学期開講
4/28(月)～5/2(金)	休講(5月連休)
6/30(月)	創立記念日
7/8(火)～19(土)	試験期間
7/23(水)	1学期終講
7/24(木)～8/30(土)	夏季休業(期間内に早期体験実習)
9/1(月)	2学期開講
10/31(金)～11/2(日)	大学祭
12/8(月)～12/20(土)	試験期間
12/20(土)	2学期終講
12/22(月)～1/3(土)	冬季休業
1/5(月)	3学期開講
2/23(月)～3/7(土)	試験期間
3/4(水)	卒業式
3/9(月)～3/13(金)	早期医療実習
3/13(金)	3学期終講

2学年	
4/1(火)	新2学年ガイダンス
4/7(月)	1学期開講
4/28(月)～5/2(金)	休講(5月連休)
5/15(木)	解剖体追悼法要
5/21(水)	学生定期健康診断
6/30(月)	創立記念日
7/14(月)～18(金)	試験期間
7/18(金)	1学期終講
7/19(土)～8/30(土)	夏季休業
9/1(月)	2学期開講
10/31(金)～11/2(日)	大学祭
12/15(月)～20(土)	試験期間
12/20(土)	2学期終講
12/22(月)～1/3(土)	冬季休業
1/5(月)	3学期開講
2/7(土)～3/13(金)	試験期間
3/4(水)	卒業式
3/13(金)	3学期終講

3学年	
3/31(月)	新3学年ガイダンス
4/7(月)	1学期開講
4/28(月)～5/2(金)	休講(5月連休)
5/15(木)	解剖体追悼法要
5/22(木)	学生定期健康診断
6/30(月)	創立記念日
7/14(月)～25(金)	試験期間
7/25(金)	1学期終講
7/28(月)～8/22(金)	夏季休業
8/25(月)	2学期開講
10/31(金)～11/2(日)	大学祭
12/11(木)～20(土)	試験期間
12/20(土)	2学期終講
12/22(月)～1/3(土)	冬季休業
1/5(月)	3学期開講
1/17(土)～2/13(金)	試験期間
1/19(月)～3/7(土)	配属実習
3/4(水)	卒業式
3/7(土)	3学期終講

4学年	
3/31(月)	新4学年ガイダンス
4/7(月)	1学期開講
4/28(月)～5/2(金)	休講(5月連休)
5/23(金)	学生定期健康診断
6/30(月)	創立記念日
7/15(火)	1学期終講
7/16(水)～8/22(金)	夏季休業
8/25(月)	2学期開講
10/31(金)～11/2(日)	大学祭
12/15(月)～20(土)	試験期間
12/20(土)	2学期終講
12/22(月)～1/3(土)	冬季休業
1/5(月)	3学期開講
1/5(月)～1/9(金)	試験期間
1/13(火)	共用試験CBT
1/14(水)～3/6(金)	総合人間医学4
2/28(土)	共用試験OSCE
3/4(水)	卒業式
3/6(金)	3学期終講

※休業日及び休業期間においても試験・授業等を行うことがあります。

大 学

平成26年度教務関係日程表(5・6学年) ※1～4年は前ページ

5学年		6学年	
4/2(水)	新5学年Student Doctor認証式・ガイダンス	4/2(水)	新6学年ガイダンス
4/7(月)	1学期開講	4/7(月)	1学期開講
4/7(月)～3/13(金)	臨床実習	4/7(月)～7/5(土)	臨床実習
5/7(水)～5/9(金)	休講(5月連休)	5/7(水)～5/9(金)	休講(5月連休)
5/22(木)	学生定期健康診断	5/23(金)	学生定期健康診断
6/30(月)	創立記念日(臨床実習開講)	6/30(月)	創立記念日(臨床実習開講)
7/25(金)	1学期終講	7/19(土)	Advanced OSCE
7/28(月)～8/16(土)	夏季休業	7/19(土)	1学期終講
8/18(月)	2学期開講	7/22(火)～8/22(金)	夏季休業
12/20(土)	2学期終講	8/25(月)	2学期開講と総合試験(第1回)
12/22(月)～1/7(水)	冬季休業	8/25(月)～10/18(土)	まとめの講義と卒業試験
1/8(木)	3学期開講	10/28(火)～30(木)	総合試験(第2回)
1/8(木)	クリニカル・クラークシップ総合試験	10/30(木)	2学期終講
3/4(水)	卒業式	10/31(金)	冬季休業開始(以降自習期間)
3/13(金)	3学期終講	3/4(水)	卒業式

※休業日及び休業期間においても試験・授業等を行うことがあります。

第108回医師国家試験結果

「第108回医師国家試験」の結果が、3月18日(火)午後2時に厚生労働省から発表されました。本学の新卒受験者96名のうち、89名が合格し、合格率は92.7%でした。新卒及び既卒を合わせた本学の受験者112名のうち、97名が合格し、合格率は86.6%でした。

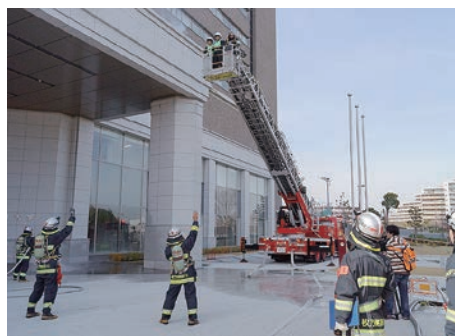
第109回に向けて、合格率100%をめざし全学を挙げて対策に取り組んでいきます。

平成25年度卒業生進路

平成25年度卒業生94名のうち、本学初期研修医は27名となりました。その他、国立大学病院7名、公立大学病院7名、私立大学病院6名、市中病院他40名などとなっています。

本学の初期研修医入職式は4月1日に行われました。詳しくは本誌卒後臨床研修センターのページをご覧ください。

枚方学舎初の消防訓練



梯子車による救助の様子

3月12日(水)午後2時30分から枚方学舎において、本学と枚方消防署合同の消防訓練が開催されました。1階のオープンラウンジを出火元とし、まず学内自衛消防隊による消火器及び消火栓による消火活動が行われました。その後、初期消火に失敗したとの想定のもと、枚方消防署による消火及び救助訓練が行われました。多数の消防車両が集結するなか、梯子車が上層階に取り残された要救助者を実際に梯子を伸ばし、4階から救助しました。

訓練後、本学神崎秀陽総務担当理事の挨拶と枚方消防署の荒木秀隆署長の講評がありました。この中で荒木署長からは「緊張感のあるよい訓練だった、今後も職場内で意識を持ち続けてほしい」との好評価をいただきました。

大 学

研究者自らがPR 新技術説明会



発表を行う森田講師

1月14日(火)、(独)科学技術振興機構JST本部別館ホール(東京・市ヶ谷)において、近畿・中部地区医系大学知的財産管理ネットワークの新技術説明会が開催されました。本学からは、内科学第二講座・森田寛講師が出席し、特許出願済の新技術「新しいシミュレーション技術による医療超音波画像の再現」について発表を行い、そのシミュレーションモデルを展示し、来場者の注目を集めました。

当説明会は、大学発のライセンス・共同研究可能な技術を発明者自らが発表することで、実用化に向けた開発を担う、もしくは共同研究のパートナーとなる企業を募ることを目的としたものであり、今回はネットワーク加入校のうち、4大学8研究の発表がありました。

企業・研究機関関係の聴講者は延べ66名に上り、説明会への関心の高さが窺えるものとなりました。

平成26年度医学部入学試験結果

大雪の中、合格発表を確認する受験生(一般入試前期・センター利用入試二次試験合格発表)



平成26年度の推薦入試、センター試験利用入試、一般前期(大阪・東京・名古屋・福岡の4会場で実施)、新たに導入した一般後期(大阪会場のみ)の合計志願者数は4,246名に上りました。25年度の合計志願者数は3,037名(推薦、センター試験利用、一般(大阪・東京の2会場で実施))から、大幅に増加しました。

平成26年度大学関係役員

4月1日から平成26年度の大学関係役員体制が次のとおりスタートしました。

学長	山下 敏夫	学生副部長	木村 穰	入試センター長	藤井 茂
副学長	伊藤 誠二		赤根 敦	病態分子イメージング	
	友田 幸一	大学院教務部長	中邨 智之	センター長	伊藤 誠二
	松田 公志	附属図書館長	螺良 愛郎	国際交流センター長	友田 幸一
教務部長	友田 幸一	附属生命医学研究所長	木梨 達雄	医学教育センター長	木下 洋
教務副部長	藤澤 順一	総合研究施設長	赤根 敦	学医	野村 昌作
	前田 茂	実験動物飼育			
学生部長	楠本 健司	共同施設長	上野 博夫		

平成26年度クラスアドバイザー

平成26年度のアドバイザーが次のとおり決定しました。

第1学年	西垣 悦代 教授(心理学)	第4学年	福永 幹彦 教授(心療内科学)
	楠本 邦子 准教授(物理学)		西山 順滋 助教(心療内科学)
第2学年	藤澤 順一 教授(微生物学)	第5学年	高橋 寛二 教授(眼科学)
	竹之内徳博 准教授(微生物学)		山田 晴彦 准教授(眼科学)
第3学年	伊藤 誠二 教授(医化学)	第6学年	権 雅憲 教授(外科学)
	松村 伸二 講師(医化学)		松井 陽一 准教授(外科学)

大 学

第130回学内学術集談会を開催



口演の様子



パネル展示を見る参加者

2月14日(金)午後3時から、枚方学舎加多乃講堂において「第130回関西医科大学学内学術集談会」が開催され、80名が来場しました。学術集談会の活性化に繋げるため、今回から、医学会賞については、受賞者を1名から若干名に、応募要件を学位授与日より1年以内から2年以内に拡大し、「再生医療コンソーシアム」と「がん関連コンソーシアム」、「ポスター発表」が新たにプログラムに加えられました。

今回は形成外科学講座が世話講座で、冒頭、同講座の楠本健司教授から挨拶があり、その後、楠本教授が座長を務め、内科学第二講座の塩島一朗教授が「老化関連疾患の基盤病態としての慢性炎症」のテーマで、これまでの研究結果の紹介と、個体老化における慢性炎症の意義について特別講演を行いました。

続いて、内科学第三講座の岡崎和一教授を座長に、医学会賞応募演者6名の口演の後、薬理学講座の中邨智之教授が座長を務め、「再生医療コンソーシアム」の2名、「がん関連コンソーシアム」の3名から発表がありました。最後の一般演題では、救急医学講座の鎌方安行教授が座長を務め、5名から口演が行われました。

今回の集談会は前回の3倍の口演数と、また「ポスター発表」は講堂前1Fのスペースに14題の展示があり、多くの人の注目を集め、その結果来場者が前回の2.6倍に増加し、集談会の活性化に繋がりました。

また、第130回学内学術集談会の応募口演を経て、厳正な審査の結果、医学会賞優秀賞が腎泌尿器外科学講座の吉田健志研究医員に、医学会賞奨励賞は内科学第一講座の尾形誠助教と内科学第三講座の福井由理助教にそれぞれ贈られることとなり、授賞式は3月25日(火)午後3時から、枚方学舎4階中会議室で挙行政されました。

医学会賞優秀賞を受賞して

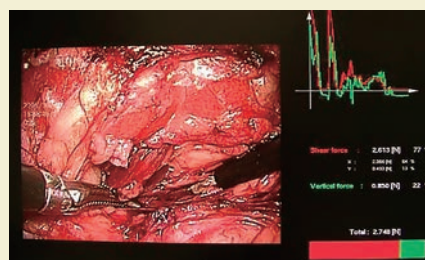
腎泌尿器外科学講座 研究医員 吉田 健志



この度は、関西医科大学の名誉ある医学会賞優秀賞を受賞出来ましたことを、心から嬉しく思っております。私は、平成15年に関西医科大学を卒業後、腎泌尿器外科学講座に入局し、平成20年に同講座の大学院へ入学いたしました。研究テーマは「腹腔鏡手術の剥離操作における技術分析」という内容で、従来の基礎医学研究とは異なる医工学連携分野に足を踏み入れての研究でありました。なにぶん前例もなく、基礎工学研究科に国内留学することが可能なのかどうかというレベルから始まりました。始めは右も左もわからず、工学分野との繋がりのある先生に紹介頂

いた基礎工学部の研究室に飛び込みで挨拶に行きました。過去に書いた医学論文を手頼み込み、工学部の先生に不思議そうな顔をされながらも、何とか特別研究生の枠を頂いたことが印象に残っています。早く受け入れて頂いた教室はCG、バーチャルリアリティ、シミュレーション、計測などの生体工学分野におけるテクノロジー創成を専門とする大阪大学基礎工学研究科、大城研究室でした。教室に入ってから腹腔鏡手術用鉗子の先端の力を計測するシステムの開発が目的でしたが、未だにガラパゴス携帯を使用している機械音痴な私にとっては、本当に荊の道でありました。プログラミング言語やOpenGLという、生まれて初めて聞く言葉と格闘しなければならず苦悩の日が続きましたが、なんとかシステム開発にこぎつけることができました。その後、関西医科大学にもどり、豚の臓器を使用し血管から周囲の脂肪組織を剥がす剥離操作を行う際の作用力計測を行いました。ここでも苦難が待ち受けていました。豚の臓器を購入するため名片片手の方々に外向き、最終的にコンタクトをとることが出来た南港の業者(屠殺場)へ実験のたびに向かい、屠殺された豚から大血管の損傷のない豚の腎臓を選び出しナイフで自ら切除し、持ち替えるということを繰り返しました。今思えば、一般人立ち入り禁止区域への立ち入り許可を頂いたことは貴重な経験であったと思います。

基礎医学分野とは大いにかげ離れた大学院生活でありましたが、他業種の方々との交渉、実験のための準備、実験計画の立案、データの整理などに費やした時間は、非常に有意義なものであり、今後の臨床研究を行う際にも役立つものと感じています。今後は、若手の先生とともに医工学分野での臨床研究を進めることを目標とし、精を出したいと考えております。最後に本研究にご協力頂いた先生方に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



キャンパスライフ

新学舎施設紹介

新学期が始まり、何かと慌ただしいこの時期、友人や教員に話せない悩みなどがあつたときお世話になる、学生相談室をご紹介します。

■学生相談室



相談内容の秘密は厳守されます。相談時間は1人約1時間です。開室日以外の曜日、時間外でも予約できます。また、直接会って話しにくい場合、手紙やE-mailでも結構です。保護者の方からの相談もお受けします。また、心理テストも各種揃えています。

- 開室時間 火・金曜日 午前12時～午後6時
- 担当者 臨床心理士
- 申込み方法 ①E-Mail：soudan@hirakata.kmu.ac.jp
- ※予約優先 ②開室時間に直接来室
- ③開室時間に(内線2239)に電話

※医学生以外にも相談室では看護学生及び職員の方の相談もお受けしています。

詳しくは下記の時間に来室いただくか、相談室あてご連絡ください。

- 看護学生：第1・3水曜日 午後5時30分～午後7時
- 職員：第2・4水曜日 午前12時～午後6時
- 第1・3土曜日 午前9時30分～午後4時
- 内線は共に2239(枚方以外は頭に81) 予約優先です。

枚方ハーフマラソンに「枚方マラソンモバイルAED隊」が参加

1月13日(月)の成人の日に行われた、第37回「新春走ろうかい」～ひらかたハーフマラソン～に、救護所要員の健康科学教室の木村穰教授を含む附属枚方病院医療スタッフと共に、本学の学生4人による「枚方マラソンモバイルAED隊」がボランティアで参加しました。

本学のLSC(Life Support Club)に所属する4人は、急を要する体調不良をきたした選手に対応するため、AED(自動体外式除細動器：Automated External Defibrillator)を携え、自転車でマラソンコースを移動しながら、参加選手の体調を見守りました。当日は5,888人が力走され、外傷や腹痛はありましたが、重大な事故はなくAED稼働はありませんでした。主催者の枚方体育協会の方から、学生たちのさわやかな挨拶や機敏な態度に感謝の言葉がありました。



参加した医療スタッフと学生

誓いを新たに
Student Doctor認証式挙行

Student Doctorとして士気を高める学生たち

平成26年度関西医科大学Student Doctor認証式が4月2日(水)午前9時から、枚方学舎1階加多乃講堂で挙行されました。山下敏夫理事長・学長はじめ教職員13名が出席の中、冒頭、友田幸一教務部長が「建学の精神である慈仁心鏡の心と、医師憲章の3つの原則と10の責務を元に実習に望んで欲しい」と激励の挨拶の後、4月から附属病院他の臨床現場で実習を始める5学年116名一人ひとりに、友田教務部長から認定証が授与されました。

その後山下理事長・学長から「これから50年、60年医者として生きていくでしょう。医師の資質を決める重要なこの2年間を頑張って下さい」と激励の挨拶に続き、澤田敏附属枚方病院長、岩坂壽二附属滝井病院長がそれぞれエールを贈りました。

最後に学生代表の南博也さんが「この先様々な悩みが生じると思うが、目標に向かって全力で取り組み、全員でやり遂げます」と誓いの言葉を述べました。

慈仁会定期総会開催

4月5日(土)午後2時40分から枚方学舎2階第4講義室において、平成26年度慈仁会定期総会が開催され、山下敏夫理事長・学長をはじめ教職員、慈仁会・同窓会関係者ほか、96名の保護者が出席しました。

はじめに友田幸一教務部長から本学の教育について、楠本健司学生部長から学生生活についてそれぞれ説明がありました。続いて平成25年度事業報告及び決算、平成26年度事業計画及び予算がいずれも承認さ

れ、役員の変更、新1学年の委員の選任が行われました。引き続き3階学生食堂に場所を移し、懇談会が開催されました。

平成26年度慈仁会主要役員

委員長	三谷 武夫
会計委員	塩田 啓仁
監事	木村 純平
	〃 柳 徳子

病 院

附属枚方病院

院内ボランティア活動者表彰式

院内ボランティアの皆さんと澤田病院長



3月20日(木)午後1時から、附属枚方病院1階第2会議室において、院内ボランティア活動者表彰式が開催されました。枚方病院では、院内ボランティア活動のスタートから6年を迎え、現在60名のボランティアの皆さんに登録・活動をいただいております。

このたび活動6周年を記念し、澤田敏附属枚方病院長から当院のボランティアとして累計500時間以上活動された4名の方に敬意と感謝の意を込めて感謝状が手渡され、参加者全員で記念撮影を行いました。

さらなる診療強化に向けて —院内改修工事が完了—

附属枚方病院では、昨年春の枚方学舎の完成に伴い、医局員が学舎へ移転して空室となった3階の元合同医局等を新たな部門へ転用するため改修工事を行っていましたが、3月末で完成いたしました。

「改修のポイント」このように変わりました。

3階(旧合同医局)

- がん治療・緩和センター(2階の化学療法センター(20ブース))を拡張移転(35ブース)し、緩和ケア部門を併設しました。
- 眼科検査室(斜視・弱視検査室、電気生理検査室)を専用検査室として新設しました。

4階(手術室)

- 現在17室の手術室に加え、新たに1室を増設しました。

附属滝井病院

第19回肝臓病教室開催

C型肝炎の進行を防ぐポイントを聞く参加者



2月15日(土)午前10時30分から、附属滝井病院本館6階臨床講堂において「C型肝炎」をテーマにした第19回肝臓病教室が、一般市民など43名が参加して開催されました。

まず、テーマに関連した最新情報や薬そして食事について、それぞれ講演がありました。参加者は講師のわかりやすい説明に熱心に聴き入り、活発な質疑応答もあり、充実した内容となりました。

また、当教室恒例となっている健康運動指導士によるストレッチ体操が行われ、参加者からも好評でした。

- | | | |
|----------------------|---------------|------------|
| 講演1. 「C型肝炎の最新情報について」 | 附属滝井病院消化器肝臓内科 | 村田美樹助教 |
| 講演2. 「C型肝炎のくすりについて」 | 附属滝井病院薬剤部 | 久保悦子薬剤師 |
| 講演3. 「肝臓を守る食事について」 | 附属滝井病院栄養管理部 | 和田なぎさ管理栄養士 |

安全・安心への自主的な取り組み

— 栄養管理部消防訓練 —

3月19日(水)午後0時20分から附属滝井病院栄養管理部の厨房において、「消防訓練」が実施されました。この訓練は、栄養管理部の自主的な取り組みで、日常的に火を使うところで火災の発生危険度が高い厨房で、調理師が揚げ物を調理中、離れた隙に鍋に火が入ったという想定で行われました。

訓練は、殆どの方が初めてでしたが、息のあったチームプレーで連携も良く、通報、消火器や屋内消火栓による消火、避難誘導等、迅速にまた真摯に取り組みました。

訓練を見学した西川光重栄養管理部部長からも「万一火災が発生したら今日のようにスピーディでスムーズな動きができるように訓練を引き続き定期的に行っていただきたい。そして、何よりも火を出さないように」と講評が行われました。

滝井川柳 優秀作品決定

このたび附属滝井病院では、教職員に向け募集した「滝井川柳」の優秀作品の発表がありました。

【最優秀賞】

忙しい 今できないは 禁句です
看護部 部長 並木みどり

【優秀賞】

空きベット 見逃しません フル稼働
看護部 副部長 川畑ユミ子
見直そう 我が家の家計と 考えて
栄養管理部 田中義隆
一工夫 まだ使えと 再利用
事務部用度課 太田まき
印刷の クリックする前 再チェック
事務部管理課 田辺正美

病 院

附属滝井病院

第5回よくわかる肝臓病セミナー開催

事前に寄せられた質問をもとに演者が
回答する質問コーナー



3月15日(土)午後2時から、守口文化センターエナジーホールにおいて、附属滝井病院の市民公開講座「第5回よくわかる肝臓病セミナー」が、一般市民など264名が参加して開催されました。

初めに附属滝井病院副病院長・肝臓病センター長の關壽人診療教授による挨拶ののち、松崎恒一准教授が司会を務め、3題の講演が行われました。講演後の質問コーナーでは、松下記念病院消化器科の沖田美香副部長の進行で、事前に回収した質問に対し、演者がわかりやすく回答しました。

演 題	所 属	演 者
(1)「肝臓病の血液検査を理解するために」	枚方市立枚方市民病院	本合 泰 副院長
(2)「C型慢性肝炎の診断と治療」	松下記念病院消化器科	長尾 泰孝 副部長
(3)「肝硬変と診断されたら」	附属滝井病院消化器肝臓内科	川村梨那子 助教

新たに走り始めます。 —患者送迎用無料巡回バスに新ルート(鶴見区方面)—

現在、太子橋地区と附属滝井病院を結んでいる患者送迎巡回バスに新たなルートが加わります。

ルートは滝井病院～鶴見区横堤～花博通り～旭区清水～滝井病院です。

このルートを開通することにより鶴見区方面から滝井病院への来院がより便利になります。

運行は5月からの予定です。



現在運行中の
患者送迎巡回バス

附属香里病院

かほりまち 第1街区竣工式開催



竣工式に参加する関係者

2月22日(土)に香里園駅東地区第一種市街地再開発事業(通称かほりまち)1街区の竣工式が現地にて執り行われました。

かほりまちは3つの街区で構成され、既に竣工している2街区の本学香里病院、3街区のバスターミナル、商業施設、マンションに続き、マンションを中心とした1街区が完成したことにより、香里園駅東地区第一種市街地再開発事業の最終事業が完成されました。平成18年6月に同再開発組合が設立され約8年の長きにわたる事業であり、京阪電車香里園駅前の東地区が生まれ変わったこととなります。

今年秋には式典が開催される予定であり、香里病院としては工事が完了し、外来患者などの集客環境が整ったこととなります。

医療安全・感染対策相互ラウンドを受審

3月6日(木)午後1時から4時まで、香里病院において日本私立医科大学協会主催の第3回医療安全・感染対策相互ラウンドを受審しました。評価者は藤田保健衛生大学坂文種報徳会病院の医師、薬剤師、看護師の合計5名でした。当日は、医療安全関係と感染対策関係に分かれ、評価表に基づくディスカッションの後、現場視察と講評がありました。

講評においては、3病院間の同時中継による講演会・勉強会や病院の広々としたスペース等について高評価をいただきました。

卒後臨床研修センター

初期臨床研修医入職式・オリエンテーション実施

平成26年度採用臨床研修医入職式が4月1日(火)午前11時から附属枚方病院13階合同カンファレンスルームにおいて挙行されました。

澤田敏附属枚方病院長、岩坂壽二附属滝井病院長の祝辞の後、本年度採用の40名の枚方病院所属の研修医、7名の滝井病院所属の研修医に両病院長から辞令交付ならびに白衣が授与され、その後、金子一成卒後臨床研修センター長から祝辞がありました。この中で金子センター長から、学生という立場から医師となった自覚をもって、研修に取り組んで欲しいなどの激励の言葉がありました。

入職式に引き続き4月11日(金)までの日程でオリエンテーションを実施、また、4月5日(土)・6日(日)にはホテルコスモスクエア国際交流センターにおいて1泊2日のワークショップを行い、研修医たちは濃厚な日程をこなし、診療現場で即戦力となることを目標に、各課題に取り組みました。



金子センター長の祝辞を聞く参加者

吉本新喜劇から学ぶ “なんでやねん力”

全職員対象コミュニケーションセミナー開催

もともとプロの芸人と
して活躍していた講師



自分のキャッチフレーズ
を発表する参加者

2月25日(火)午後6時から枚方学舎1階加多乃講堂において、卒後臨床研修センター主催によるコミュニケーションセミナーが、株式会社WMcommons代表取締役で放送作家の中山真氏、同取締役で放送作家の中原誠氏を招聘し、テーマを「吉本新喜劇から学ぶ『なんでやねん力!』』と題して開催されました。

参加した124人は、お笑いや各席でのインタビューを交えての、五つのおもてなしの心がけや、失敗だけでなく成功したことに対しても、常に「なんでやねん」と自問し、問題の発見・解決につなげることが大事であると、幾人かの芸能界の人が普段から心がけている内容を例に挙げての講演に、時には大笑いしながら熱心に聴き入り、「実際の業務の中で今日学んだことを生かしていきたい」「笑いのプロから学ぶことは多かった」などの感想が聞かれました。

平成24年度に採用した初期臨床研修医の研修修了式が3月28日(金)午後4時から附属枚方病院13階合同カンファレンスルームにおいて、挙行されました。

臨床研修修了式
挙行

今年度は46名(附属枚方病院38名、附属滝井病院8名)の研修医が初期臨床研修を修了しました。式典では澤田敏附属枚方病院長、關壽人附属滝井病院副病院長から各々の病院所属の修了者に臨床研修修了証が授与された後、祝辞があり、金子一成卒後臨床研修センター長から激励の言葉が贈られました。



看護シスター研修

2月8日(土)、『新人を育てながら自分も育つ』をテーマとしてシスター研修を開催しました。受講者は4月より新人看護職員を迎えるために真剣に取り組む有意義な研修会となりました。



講師として招聘した
公益社団法人日本看護協会
看護研修学校教育研究部の
渋谷美香部長



看護副師長研修

2月15日(土)、『忘れていませんか？実践の中の看護倫理』をテーマとして看護副師長研修を開催しました。様々な倫理的諸問題について考え、基本から方策まで多くの学びがあり、実践に活かされると好評でした。



講師として招聘した
聖路加看護大学成人看護学
宇都宮明美准教授

牧野校舎に迎える初めての新生

平成26年度附属看護専門学校入学式挙行

4月4日(金)午前10時から枚方学舎加多乃講堂において「平成26年度附属看護専門学校入学式」が挙行され、82名の新生(35期生)が看護師への第一歩を踏み出しました。来賓、保護者ら多数ご臨席のなか、新生一人ひとりの氏名が読み上げられた後、岡崎和一学校長の式辞の他、来賓を代表して山下敏夫理事長と安田照美附属枚方病院看護部長から祝辞があり、新生を激励しました。

続いて、新生を代表して木村理穂さんが宣誓した後、在校生代表の織田実早恵さん(34期生)が歓迎の言葉を述べ、さらに新生代表の森愛美さんが力強く、今から始まる学生生活の抱負を語りました。

なお、今回の入学式は看護専門学校が昨年8月牧野校舎へ移転後初めてであり、新生はこれからの3年間、その牧野校舎で勉学に励むことになります。



学生生活の抱負を述べる新生

学 校 長 式 辞

本日は入学おめでとうございます。

関西医科大学附属看護専門学校の教職員を代表してお祝いと歓迎の言葉を述べさせていただきます。また、皆さんの勉学を今日まで支援し、励ましてこられたご両親をはじめ、ご家族先生方にも心からお祝いを申し上げます。併せまして、ご来賓の皆様方には、本日はご多忙のところ、新生のためにご臨席を賜り、厚くお礼申し上げます。

関西医科大学は昭和3年(1928年)に創立された輝かしい歴史と伝統をもつ私立医科大学であります。その附属看護専門学校である本校も、昭和7年(1932年)に附属看護婦養成所として開設され、今年、82年目を迎える歴史ある看護専門学校です。この3月までに4243名という実に多くの正看護師を世に送り出しております。

本年は35期生として女子78名、男子4名、計82名を本学に迎えました。

本校は昨年8月に大阪市内から枚方・牧野の地に移転しました。みなさんは初めてここで入学を迎える最初の学年となります。

新生の皆さんは、本日からこの伝統ある関西医科大学の看護学生として、誇りと責任を持って是非、充実した学生生活を過ごしていただきたいと思っております。

本学への入学に際し、皆さんに一言お話をさせていただきます。

さて、今日から入学されますあなた方に私から四つのkをお贈りしたいと思います。

一つ目のkは勤勉 二つ目は謙虚 三つ目は国家試験 そして四つ目が希望です。これからの三年間忘れることなく持ち続けて下さい。

看護という文字を調べてみますと「看」は手と目に従う、つまり目の上に手をかざして望み見ること、また「護」は注意深く守護する、鳥を手にとって祝詞をあげ鳥の様子を注視し、占って守ることをいうとあります。この様に看護師には 広い視野を持ちつつ目の前の傷や病を負った人々を支えていくという使命があります。

振り返ってみますと阪神大震災から19年、東日本大震災から3年と私たちはまだまだ自然との闘いの真ただ中にいます。皆さんが敬愛するナイチンゲールはクリミア戦争で傷ついた人々の中に身を投じ、その歴史の狭間でまさに戦場の女神として働きました。統計学者でもあった彼女は勤勉にそして環境にたいして謙虚にいつか戦争のない世界をと希望して生涯を捧げました。さすがに国家試験に苦勞したという話は書かれてはいませんが… 今日からあなた方も一人ひとりが看護の世界の歴史を日々築き上げてゆく立場であるという大きな自負を持って下さい。

皆さんは、牧野の地での勉学となります。牧野は関西医大の開学の地でもあり、また本学も昭和47年から8年間牧野を学び舎としており我々の故郷であります。この、緑豊かな学舎は訪れる度に、歴史と伝統を感じ心穏やかになる地です。今日から希望に向かって歩み始めて下さい。そして健康に気をつけながら、これからの3年間、日々勉学に励んで下さい。

皆さんの将来を託された立場にある私たち教職員は全力であなた方を支えるべく心をひとつにしておりますことをお伝えして、以上私のご挨拶としたいと思います。

本日は本当におめでとうございます。

平成26年度附属看護専門学校入学試験結果

附属看護専門学校の平成26年度一般入学試験は前期が1月9日(木)・10日(金)、後期が2月18日(火)にいずれも牧野校舎にて実施されました。前期は88名が志願し35

名(男子3名)が、後期は60名が志願し19名(男子1名)がそれぞれ合格しました。

覚悟と誇りを胸に看護の道へ踏み出す72名

附属看護専門学校卒業式



岡崎学校長から卒業証書を授与される卒業生

3月6日(木)午前10時から枚方学舎加多乃講堂において、附属看護専門学校の「平成25年度卒業式」が挙行され、来賓、保護者らが多数ご臨席のもと、岡崎和一附属看護専門学校長から卒業生72名に卒業証書が授与されました。その後、岡崎学校長が式辞を述べ、続いて来賓を代表して山下敏夫理事長と安田照美附属枚方病院看護部長がそれぞれ祝辞を述べ、卒業生を激励しました。さらに、在校生を代表して山内美穂さん(2年生)が卒業生にはなむけの言葉を贈り、卒業生代表の山田みなみさんの答辞では、お礼の言葉や3年間の思い出を語り、卒業生は新たな決意をみなぎらせていました。

学 校 長 式 辞

本日ここに無事卒業の日を迎えられた第32期生72名(女子67名、男子5名)の皆さんおめでとうございます。関西医科大学附属看護専門学校の教職員一同心からお祝い申し上げます。そしてこれまで支えてこられたご家族・保護者の皆様に心よりお慶び申し上げます。また卒業生を、学業の側面から導いてくださった実習機関の関係者の方々、またご多用の中ご臨席賜りましたご来賓の皆様にも深くお礼申し上げます。本校は昨年、大阪市内から枚方市内に移転し、今年は移転後始めて枚方の地から卒業生を送り出すことになる節目の年でもあります。

さて、看護師としてのスタートを前に、学校長として一言お話をさせていただきます。

卒業生の皆さんは本校に入学以来、良き看護師となるべく、日々勉学に励み、看護に必要な知識・技術の習得を目指すとともに、患者さんに対する、いたわりのこころを育ててこられたことと思います。本日の白衣姿は、これから歩む看護の職業人としての覚悟と誇りの象徴であるとともに、社会が皆さんの力を必要とする証であることをあらためて自覚して下さい。

しかしながら、実際に看護師生活がスタートすると、学生時代と異なり、そこには多くの苦悩や挫折が待ちかまえているかと思います。

学生時代には、ある意味で勉学など自分自身に対する責任を全うすればよかったのですが、これからは、医療人として深刻な病気や悩みを持つ患者さんと積極的

に関わることにより生じるストレス、あるいは現代医学をもってしても、どうしてもならないジレンマなど、時に厳しい現実も待っているかと思えます。皆さんが目指した看護という仕事は、人と人とのかかわりの中で行われますので、他人を理解し、時には共感し協調する姿勢は極めて大切で、その繰り返し、人間関係スキルの向上とともに、人として成長させてくれます。その過程で人に奉仕して感謝されることこそ大きな喜びとなるだけではなく、看護師としての仕事を全うする糧(かて)ともなります。是非、初心を忘れず、力強い、かつ心優しい看護師に成長してもらいたいと願っています。

今日皆さんはそれぞれの描く理想の看護師像を胸に羽ばたくわけですが、同時に社会人としても旅立つわけです。はなむけに「よき医療人の前によき社会人たれ」という言葉を贈りたいと思います。医療・看護に対する知識・技能とともにコミュニケーション能力を育むことは良き看護師になるために勿論大切ですが、「きちんと挨拶する」、「時間を守る」などはじめや節度をわきまえた大人としての振る舞いに気をつけて、頑張ってください。

最後になりますが、今日までご指導くださった諸先生方、並びに関係機関、関係施設のかたがたに厚く御礼を申しあげ、4月からはじまる、皆さんの看護師としての輝く未来と今後の成長に期待して、私の式辞と致します。

第103回看護師国家試験結果

3月25日(火)に第103回看護師国家試験の合格発表があり、本校からは75名が受験し、74名が合格しました。合格率は本校が、98.6%で、全国では89.8%でした。

同窓会



加多乃会館

同窓会と加多乃会、新学舎へ移転 「どうする加多乃会館」

関西医科大学同窓会理事 杉岡 武彦 (32回生)
一般財団法人加多乃会理事

加多乃会館は同窓会の発展や同窓生の親睦と憩いの場として昭和51年2月、滝井の母校の近くに竣工されました。この建設の財源は多くの先人の浄財で賄われました。因みに加多乃会館の規模は敷地98坪、地上4階建、総面積約524㎡、総工費は当時の金額で約1億3,100万円を費やし、施主は財団法人加多乃会であります。また完成を記念して盛大な披露パーティーが挙行されたそうです。このことは同窓会80年、加多乃会40年という輝かしい歴史の中でも画期的なイベントの一つとされています。

その後加多乃会館ができたことにより同窓会事業は円滑に遂行され、同窓生の日常生活のモチベーションを高めるのに役立っています。また加多乃会の定款に謳っている地域の医療や福祉推進に寄与する事業なども順調に行われており社会の信頼に貢献しています。まさに加多乃会館は同窓会と加多乃会の活動の要となっています。

一方大学では山下敏夫理事長・学長先生をはじめ、関係各位の多大な努力により皆様ご承知のようにアクションプランの事業として平成25年4月1日に附属枚方病院と直結した素晴らしい新学舎が完成されました。それに伴い大学側から新学舎の13階に同窓会と加多乃会が入ってほしいとの要望がございました。同窓会と加多乃会は申し入れに対応するため早速「加多乃会館移転等検討委員会」を立ち上げ慎重に議論を重ねて交渉に臨み、その結果、双方とも提示した条件に合意し円満に移行することができました。

そこで今、緊急の課題となっているのが移行後の加多乃会館をどうするのかであります。現在、同窓会と加多乃会の理事による「加多乃会館の今後について」話し合いの会が発足し、鋭意努力して最善の策を討議中であります。

加多乃会館の先行きは、まだ決まっていませんがいずれにせよ加多乃会館が存在したからこそ、今の盤石な同窓会があり、今の同窓会があるからこそ我々の楽しみが未来に繋がります。

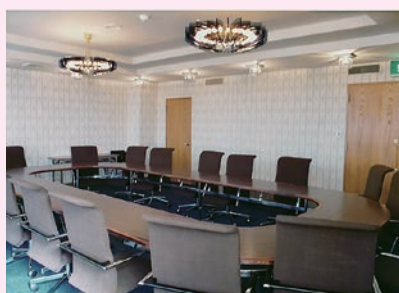
今いえることは、加多乃会館設立に向けて血と汗を流し、尽力された先輩に報いることでもあります。そのためには加多乃会とはどのような会で、どのように同窓会を支えてきたかを同窓生に知っていただき、そして理解してもらうことに努めなければなりません。

加多乃会館の佳き行く末を願って。

— 会館内部 —



2階 和室



2階 会議室



4階 会議室

メディア情報

教職員メディア情報

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、また記事を掲載された教職員の方々を紹介します。
(主に平成26年1月1日～3月31日 *判明分のみ)

健康科学教室 木村穰 教授	テレビ大阪「なにしよ」 (1月8日)	睡眠について、睡眠不足が健康や美容に及ぼす悪影響と、その解消方法や上手で正しい睡眠の取り方について、出演者の悩みに答える形式で説明しました。
健康科学教室 木村穰 教授	朝日放送 「おはよう朝日です」 (1月9日)	冬場に多発するヒートショックについて、実際に発生しやすい風呂場での状況や、原因となる身体のメカニズムと、部屋の温度差をなくす事や身体はゆっくり暖めるなどの予防方法について説明しました。
耳鼻咽喉科・頭頸部 外科学講座 朝子幹也 講師	朝日放送「キャスト」 (1月21日)	年々ひどくなる花粉症事情とその治療において最近注目されている、家庭で簡単にできる舌下免疫療法について説明しました。
健康科学教室 木村穰 教授	朝日放送「キャスト」 (2月4日)	冬場はとかく外出が億劫となり運動不足に陥りやすいことから、自宅でする簡単な運動のひとつである「腰掛タップダンス」について、その効用を説明しました。
小児科学講座 石崎優子 准教授	読売新聞 (2月6日朝刊)	医療ルネサンス「長引くせき-チック症多くは自然治癒-」の記事の中で、せきチックは「ほとんどが時間がたてば自然に良くなるので、患者や家族の不安を取り除くことが大切」とのコメントが掲載されました。
救急医学講座 中谷壽男 診療科教授	読売新聞 (2月11日朝刊)	スキャナー「大量服用で招く安易な処方-精神薬で救急搬送-」の記事の中で、大量服用患者を受け入れる医療機関が少なく、救命救急センターで受け入れているが、ICUで対応せざるを得ず深刻な救急患者を受け入れられない場面が頻発している」とのコメントが掲載されました。
産科学・婦人科学講座 安田勝彦 准教授	産経新聞 (2月19日夕刊)	特集「女性のがん」の記事の中で、良性以外の卵巣腫瘍の15%を占める境界悪性腫瘍について、「初期は自覚症状が出ず、腹水によりお腹が張るなどの症状は、病気がかなり進行した状態」とのコメントが掲載されました。
衛生学講座 菌田精昭 教授	日経産業新聞 (2月24日発刊)	菌田教授が開発した、様々な種類の細胞に成長する性質を持つ可能性がある「微小幹細胞」を、マウスや人の骨から効率よく取り出す手法が紹介され、採取効率が従来の60倍であり、再生医療などにに向けた研究も進むことが期待されるとの記事が掲載されました。
耳鼻咽喉科・頭頸部 外科学講座 朝子幹也 講師	読売テレビ 「かんざい情報ネットten」 (2月28日)	花粉症に対する舌下免疫療法は十分な効果が出ると体質が改善され、根治できる可能性がある」と説明しました。
耳鼻咽喉科・頭頸部 外科学講座 朝子幹也 講師	毎日放送「VOICE」 (3月6日)	花粉症治療として、杉などのアレルギー物質のエキスを摂取する舌下免疫療法は、注射と異なり自宅でするため負担が少ないと説明しました。
耳鼻咽喉科・頭頸部 外科学講座 朝子幹也 講師	読売テレビ「ミヤネ屋」 (3月18日)	舌下免疫療法の手段として、舌の下に置いたパンにスギ花粉エキスを染みこませることで体をスギ花粉に慣らしていく方法を紹介しました。
法医学講座 赤根敦 教授	中日新聞 (3月28日朝刊)	袴田事件の再審決定に係るDNA型鑑定の解説コメントが掲載されました。
法医学講座 赤根敦 教授	毎日新聞 (3月28日朝刊)	袴田事件の再審決定の決め手となったDNA鑑定についてコメントが掲載されました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。
※職位は出演・掲載時点です。

お知らせ

編集後記

今号では、医学部と看護専門学校の卒業式と入学式をご紹介します。因みに、25回目の発行となる今号で紹介した卒業生は、本誌の創刊号の表紙を飾った、牧野キャンパス大講堂で天井画を見上げる医学部入学生です。

毎年訪れる出会いと別れの季節、今年は皆さんにとってどのように映ったでしょうか。この1年を振り返ると、医学部では「枚方で初めての…」、看護専門学校では「牧野で初めての…」という、心機一転の出来事が多くありました。

続いていくもの、新たに始まったもの、それぞれがこの土地に根付いて続いていってほしいものです。次回の本誌発行は7月末です。(H.H)

学舎の風景

こちらでは特にイベントではない枚方学舎の日常を写した写真を不定期でご紹介します。



大雪に見舞われた枚方学舎

2/14大雪に見舞われた近畿地方ですが、枚方学舎の中庭にも、数センチの雪が積もりました。思わぬ大雪に学生も雪遊びをしたり、雪だるまを作ったりと楽しそうでした。

関西医科大学広報 Vol.25

発行 学校法人 関西医科大学
編集 法人事務局総務部広報課
〒573-1010 大阪府枚方市新町 2-5-1
TEL 072-804-0101 (代表)
FAX 072-804-2547

<http://www.kmu.ac.jp>

E-mail kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

平成26年5月12日(月)発行